

# 都数研会報

東京都高等学校数学教育研究会  
事務局 都立杉並高等学校  
事務局長 長 津 美 明  
発行所 都立昭和高等学校内  
編集発行人 萩 原 聡  
都数研HP <http://tosuiken.jp/>

## 平成 25 年度都数研総会・研究協議会報告

平成 25 年度の総会・研究協議会が、去る 6 月 7 日(金)、都立青山高等学校の 5 階ホールにて開催された。

この日の講演では、横浜国立大学大学院の根上生也先生をお招きして「数学 I」に新しく入った論証部分の指導法の理解について拝聴、新学習指導要領の作成のねらいについて、数々の具体的な事例を示され、研鑽を深めることができた。

総会では、平成 24 年度事業報告、平成 24 年度決算及び監査報告があった。また、平成 25 年度役員選出で、新会長の下條隆史(立川高・校長)が承認された。その後、下條会長より役員と理事が示され、承認された。主な役員は以下のとおり。

副 会 長 長津美明(杉並高・校長)  
北原都美子(明星中高・校長)  
事 務 局 長 長津美明(杉並高・校長)  
事務局次長 吉田 亘(田園調布高・校長)

研究部長 竹村恭一(本所高・校長)  
研究副部長 真保俊哉(神代高・校長)  
柴田 誠(清瀬高・校長)  
定 通 部 長 川澄秀一(第三商・定副校長)  
編 集 部 長 萩原 聡(昭和高・校長)  
編集副部長 加藤竜吾(東村山高・副校長)  
水本 香(翔陽高・副校長)  
監 査 坂本憲二(駒場高・校長)  
宮下義弘(大泉桜高・校長)

その後、平成 25 年度事業計画と予算が承認された。

研究協議会では、教育委員会を代表して、指導部高等学校教育指導課の課務担当係長 横田雅博先生、会場校の小山利一校長先生からご挨拶をいただいた。

文責 編集部 川井田友紀(東村山西高)

## 数学教育発展のために

会長 下條隆史(立川高・校長)



竹村前会長による都数研の様々な改革と各分科会の活性化、そのご尽力を、そのまま継承して、会長職を務めてまいります。

幸い、私には、会長を務められたお二人、広尾高校の田神先生と日本橋高校の竹村先生が現役校長であること、そして、明星中高の北原校長先生にも副会長として、

協力していただけることが重なり、基盤は整備されています。

前会長の下、今では、5 つの分科会も、毎回 20 名を超える先生方が集まり、研究活動をしています。また、編集部にも若手教員が集結し、20 名近い部員が活躍しています。今年の目標として、年 3 回の会報の復活と研究集録 50 号特別企画も計画されています。また、竹村前会長が、昨年度、今後の数学教育の将来を見据えて、2 つの特別委員会を設立しました。1 つは、10 年後のカリキュラム改訂に向けての委員会です。研究部長である本所高校の竹村校長先生が委員長となり、2 年後の提言に向けて動き出しました。また、教職員研修センターとの連携研修や本研究会の開催のあり方を検討する特別委員会は、大泉桜高校の宮下校長先生が委員長となって、検討を進めております。その中で、以前行っていた研究大会の話題も浮上しています。

今後、本研究会の発展に、皆様力がさらに結集できるように努力してまいりますので、よろしく願いいたします。

## 退任にあたって

竹村精治(日本橋高・校長)



私自身、35 年間お世話になった都数研の再生に舵取り役の一人として関わられ、少しは恩返しできたかなと思っているところです。そして、今重荷を降ろささせていただきました。安堵と一抹の寂しさを感じています。

平成 20 年度に研究部長となり、研修センターとの連携研修の定着や会員の増加策に腐心し、平成 22 年には、副会長として会費の値上げや都数研の組織の整理をし、伝統ある分科会の名前を消すことになりました。都数研と兄弟的存在であった東京都工業高等学校数学教育研究会がなくなった寂しさを経験している私にとってつらい舵取りでした。

そして、平成 23 年度から会長となり、教育委員会に対して交換便の利用の緩和などをお願いし、やっと実現をしました。

その間、会員諸氏の御努力で財政面の改善、研究諸活動の活発化が図られるようになりました。平成 24 年度には、教職員研修センターとの連携研修の改善や次期学習指導要領の改訂を視野に入れた特別委員会を設置し、検討をお願いしています。

都数研は研究と懇親を大切にして活動を活発化させてきています。この伝統を継承し、日本を代表する高等学校数学教育研究会であり続けることを祈念し、退任の挨拶といたします。